

# 富山でみえる 2022年8月の星空

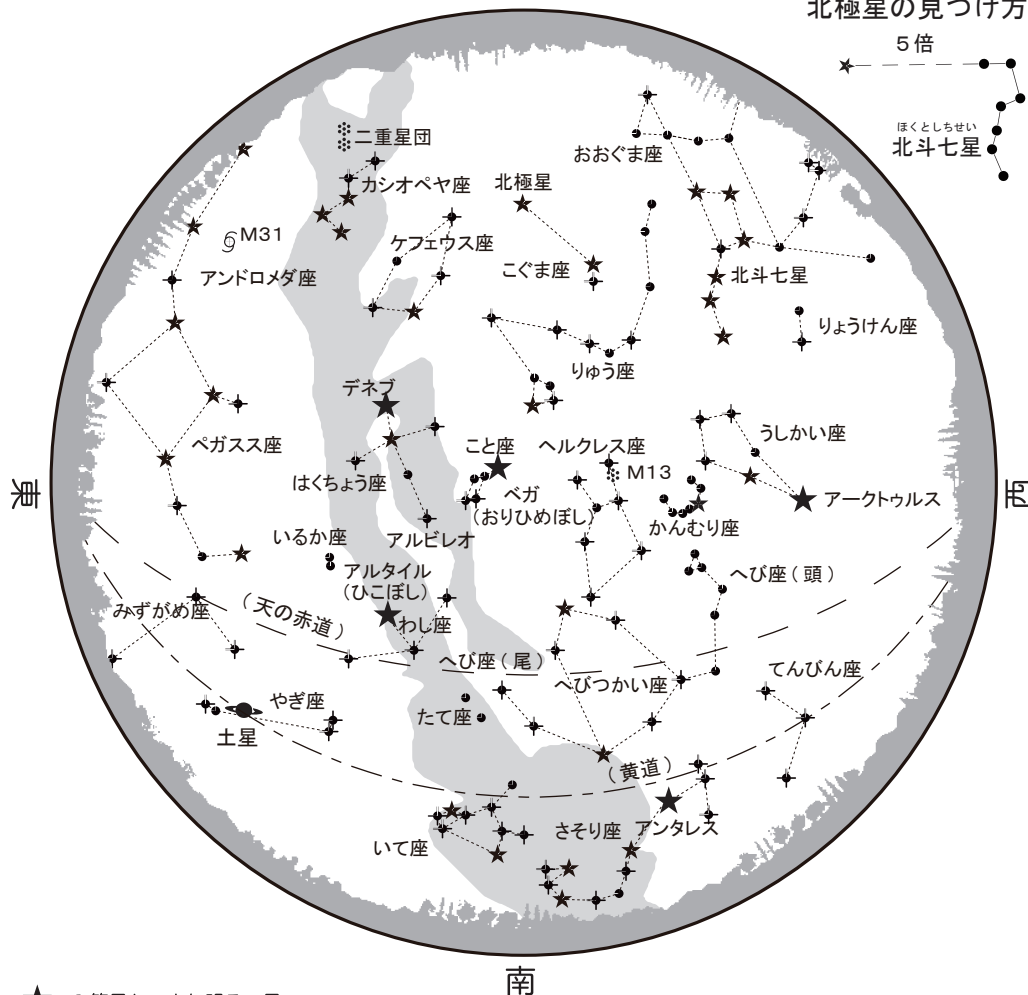
自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。

北

ほっきょくせい  
北極星の見つけ方

5倍

ほくとしちせい  
北斗七星



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ≡ 星雲
- ☾ 銀河

～この星空が見えるのは～

8月 5日 午後9時ころ  
8月 20日 午後8時ころ  
9月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

8月 5日 上弦 ①  
8月 12日 満月 ②  
8月 19日 下弦 ③  
8月 27日 新月 ④



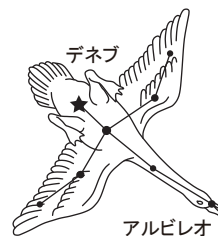
こと座

夏の星空で一番明るい星のベガが目印です。ベガは七夕の織姫星です。ベガの東側には、望遠鏡で見ると二重星が2つ並んで見える「ダブル・ダブルスター」という四重星があります。また、この星座にはドーナツのような形をした「リング状星雲」もあります。



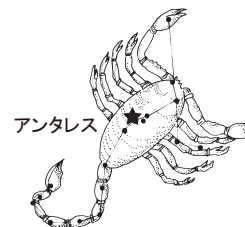
わし座

七夕の彦星であるアルタイルが目印です。アルタイルとは「飛ぶワシ」という意味で、2つの星がアルタイルを挟んで一直線に等間隔で並んでいる様子を飛んでいるワシに見たところからその名がつけました。



はくちょう座

夏の大三角の一つである一等星デネブが目印です。この星を先頭に、天の川の中にきれいな十字を形作っています。くちばしの星はアルビレオといい、肉眼では一つの星に見えますが、望遠鏡で見るとオレンジ色と青色の2つの星に見える二重星です。



さそり座

赤い1等星アンタレスが目印です。釣り針のような形に星が並んでいるので、日本では「魚釣り星」や「鯛釣り星」と呼ばれました。なお街明かりなどのため下半分は見えにくいことがあります。アンタレスはとても大きな星で太陽の約720倍もあります。



いて座

南の空低いところ、北斗七星とよく似た星の並びの「南斗六星」が目印です。いて座のあたりでは天の川が一番明るく見られます。そこが天の川銀河の中心方向で、今年5月にはこの天の川銀河の中心にあるブラックホールの姿がはじめて公開されました。

## 夏の星座の見つけかた

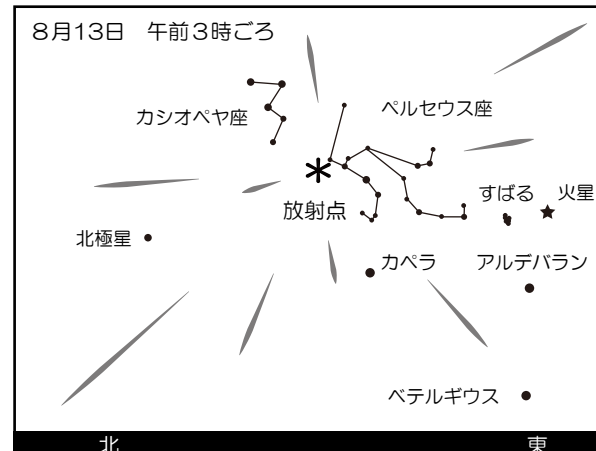


- 1 空高くに、青白くてとても明るいこと座のベガを見つめます。それを手がかりとして、「夏の三角」を見つめます。
- 2 南の空に、赤くて明るいアンタレスを見つけ、そこから釣り針の形をしたさそり座を見つめます。
- 3 夏の三角とさそり座の間にへびつかい座を見つめます。2等星のラスアルハゲがへびつかい座の頭の部分です。
- 4 さそり座の東に、ひしゃくの形をした「南斗六星」を見つけ、そこからいて座の星の並びを見つめます。さらに東に逆三角形に星が並んだやぎ座を見つめます。今年はやぎ座のあたりに土星が見られます。

## ペルセウス座流星群を見よう！

毎年たくさんの流れ星が見られるペルセウス座流星群。今年は8月13日夜明け前の午前2～4時ごろに最も多く見られると予想されています。今年は12日が満月のため、その前後の日は月が明るく、流れ星を観察する

には良い条件とはいえません。とはいえ、明るい流れ星が見られるかもしれないので、ぜひ観察してみましょう。流れ星は、図の放射点(\*)あたりを中心として空全体の四方八方に流れます。どこに出現するかわからないので、なるべく空全体を見渡すようにしましょう。もし当日に曇りや雨で流れ星が見られなくても前後数日は見るできるので、あきらめずにチャレンジしてみてください。



## 天の川銀河のブラックホール

郊外の夜空の暗いところでは、夏の三角からいて座のあたりにうっすらとした光の帯が見えることがあります。それが天の川です。その正体は私たちがいる天の川銀河のたくさんの星たちです。太陽のように自分で輝く恒星の集まりで、その数は約2000億個もあります。今年5月には、日本を含む国際研究チームがこの天の川銀河の中心にあるブラックホールの撮影にはじめて成功したと発表しました。

